研究主題

すだちプロジェクト
「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化
～　教頭としてできること　～

郡山市立桜小学校　　教頭　　鈴木　雅博

Ⅰ　プロローグ

自教室を出て、よく職員室で過ごしていた◇◇くん。ある日…。「ぼくはねえ、きょうしつにいるとじゃまなんだよ。」と。別の日…。◇◇くんを職員室に呼びに来た女の子。「◇◇くん、きょうしつにもどりな。めいわくだよ。」と。担任は、大変優秀な教師である。指導力は高く、児童への接し方、言葉かけも間違いない。それなのに…。入学からたった半年。◇◇くんは、学校生活の中で、自分を「じゃまな子」と認識してしまったのか。友達から、「めいわくな子」と思われてしまったのか。居場所づくり、なんとかしなければ…。本気の挑戦が始まった瞬間であった。

Ⅱ　研究概要

１　研究主題設定の理由

(1) 今日的課題との関わりから

研究主題の文言“「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化”は令和５年１０月１７日文部科学省から発出された大臣メッセージそのものである。メッセージでは、令和５年１０月４日に公表した令和４年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」において、「小・中学校の不登校児童生徒数、そのうち学校内外で相談・指導等を受けていない児童生徒数がそれぞれ約３０万人、約１１万４千人に上り過去最多となっている（途中省略）、極めて憂慮すべき状況であることが判明しました。この状況は非常に深刻であり、子供たちが誰一人取り残されず、安心して学ぶことができる環境を早急に整えるため、この度、『不登校・いじめ緊急対策パッケージ』をとりまとめることとしました。」と述べられている。また、メッセージの最後では、児童生徒に向けて、「我々大人が全力で様々な学びの場や相談の場を作り出していくので、学校に行くのが苦しくなったときや、悩みがあるときにはぜひ積極的に活用してください。我々はみなさんの味方です。」と結ばれている。

(2) 本県教育との関わりから

本県では、「『第７次福島県総合教育計画』目指すべき姿：個人と社会のWell-beingの実現」の施策の一つとして「学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる」ことが掲げられている。ＳＷＯＴ分析の状況から、生徒指導面の課題として、不登校児童生徒が増加している現状と、特別な支援が必要な子供の増加による学びの場の整備が挙げられている。そして、施策展開にあたっての取組として、不登校及びその傾向のある児童生徒にスペシャルサポートルームを活用することや、多様な子供たちが自分らしく学校生活を送り、主体的な進路決定を行うことができるよう、子供たちの異変の早期発見、心のケア、学習支援、進路相談等に取り組むための体制を強化することで、個別支援の充実を図るとしている。令和５年１０月１６日「第７次福島県総合教育計画をもっと身近に」の動画の中では、福島県教育委員会教育長が「これからは、教室に復帰させるということだけにこだわらないで、安心できる多様な居場所をつくっていくことが大切。そうしたことによって、誰一人

取り残すことなく、すべての子供たちが可能性や個性を伸ばすことができるように子供たち一人一人の状況に応じた教育機会の提供・支援をしっかり取り組んでいく必要がある。」と述べられている。一方で、県民の皆さんの声としての県政世論調査からは、「不登校やいじめ、経済的な困難を抱えるなど多様な児童生徒への対応」が実践されていないと答えた割合が３５．０％にも上るという結果もある。これらのことから「誰一人取り残されない学びの保障」は本県においても、まさに喫緊の課題と位置付けられている。

(3) 本校の教育目標等の具現から

本校は、教育目標に「確かな学力を身につけた健康で心豊かな子どもの育成」、目指す教師像に「子どもに寄り添う教師」、目指す学校像に「『子ども達にとって毎日が楽しい、温かさに満ちあふれた学校』～『一人一人に寄り添う教育』の充実に努めます～」と謳っている。そして、校長の学校経営方針には、「課題をのりこえる力（レジリエンス）」の育成が示されている。まさにこれらは研究主題「誰一人取り残されない学びの保障」に繋がっていくものである。これらを達成するためには、学習サポート・心理的サポート体制（７学年を中心とした学習支援スタッフ、不登校対策主任、生徒指導主事、該当担任、スクールカウンセラー、養護教諭、特別支援教育コーディネーター、関係機関、保護者との連携等）を整えることが重要と考える。

(4) 児童の実態から

全校児童数５１５名、児童は毎日元気に学校生活を送っている。令和５年度全国学力・学習状況調査等の結果からは、全国平均を超えているものの、個人差・学年差は大きく、特に、自分の考えを分かりやすく伝えたり、話を聞いて理解を深め考えたりする力を磨いていくことに課題があることが分かった。いわゆるコミュニケーション力の向上である。令和５年度の通常学級に在籍する特別な支援を要する児童は７名、不登校児童９名、不登校傾向児童１２名と全校児童数は減少傾向にあるにも関わらず、不登校に関係する児童は増加傾向にある。その理由は、本人によるもの、友達のこと、家庭環境、自分でもよく分からないなど、多岐にわたっている。

(5) アンケート（Ｒ５．１０）の結果から

４９３名中３１名（約６．３％）が、学校は「どちらかといえば楽しくない」、「楽しくない」と感じている。この人数には、不登校児童、不登校傾向児童が含まれていないことを考えると、学校はどちらかといえば楽しくない、楽しくないと感じている児童の割合はさらに上昇するものと思われる。また、１０２名の児童が､何らかの悩みを抱えており、家族に対する悩みは半数の５１名に上る。

(6) ＳＣの活用状況（令和５年度）から

ＳＣ年間勤務日数３０日の中で、児童からの相談件数はのべ７０件、保護者からの相談件数はのべ１２件。児童では、人間関係に関する相談が３０．０％、不登校に関する相談が１４．３％。保護者では、不登校に関する相談が６６．７％、学校不適応に関する相談が１６．７％。児童３９名の相談者のうち不登校・不登校傾向児童が１０名。保護者９名の相談者では、６名が上記児童の保護者となっている。いかに不登校に関する相談の占めている割合が高いか分かる。

上記(1)～(6)から、研究主題「『誰一人取り残されない学びの保障』に向けた取組の緊急強化」は、本校としても例外の課題ではなく、むしろ危機的な状況にあり、早急に解決に向けた取組をすることが必須である。大臣や教育長の言葉通り、不安や悩みを相談できない子供たちがいる可能性や、子供たちの不安や悩みが従来とは異なる形で現れたり、一人で抱え込んだりする可能性等も考慮し、子供たちのＳＯＳを早期に把握・対処する取組を強化し、更には、子供たちに安心できる多様な居場所や様々な学びの場をつくり出し、

すべての子供たちが可能性や個性を伸ばすことができるよう、子供たち一人一人の状況に応じた教育機会の提供を積極的に支援していくことが急務であると言えることから、本主題を設定した。

２　研究主題の解釈

(1)「誰一人」とは

本校に通う全児童のこと。特に、不登校児童、不登校傾向児童、ＳＲすだち利用対象者（後述）に焦点を当てる。

(2)「取り残されない」とは

すべての児童に適した教育や支援が提供され、障がいの有無や家庭環境にかかわらず、適切な教育を受けられるようにすること。

(3)「学びの保障」とは

個々の児童に合わせた教育ニーズへ対応し、適切で質の高い教育を受けさせ、最大限に自己を発展させる機会を得させること。

(4)「取組の緊急強化」とは

すでに行ってきている取組を、有効性の観点から見直し、必要に応じて早急に追加の要素を加えること。また、新しい取組を、創造・実施すること。

(5)「すだち」に込められた願いとは

我々大人である教職員が全力で様々な学びや相談の場＝「ＳＲ（サポートルーム）すだち」をつくり出し、個々の成長に合わせたすだち（巣立ち）を実現させてあげたい。場の一つとしては、栽培活動や体験活動を取り入れることで、新しい知識や理解を得る喜びを感じさせたい。児童と教職員が対話を通して、それぞれの興味・関心・発想・創意工夫を織り交ぜながら、様々な面からアプローチしていき、新しい環境、新たな学びの中で自分を見つめ、自分が主となる居場所を見つけ出してもらいたい。

(6) 教頭としてできることの意味とは

教頭一人では限界があるため、教頭が中心となってアイディアを出し、生徒指導主事や該当担任、スクールカウンセラー等と協働して主題の達成に努める。その際、教職員の負担過重になってはならない。また、関係機関、保護者との連携も果たしていく。不登校の要因を取り去ることばかりに注力するのではなく、楽しく学べる学校、感動・魅力のある学校を目指し、自身のイマジネーションを発揮して、子供の居場所をつくってあげたい。

３　研究で目指す児童の姿

(1) 第一段階目標としての「家庭から学校へ目を向ける復帰（間接的な人との繋がり）」

(2) 第二段階目標としての「学校へ戻る復帰（大人との直接的な繋がり）」

(3) 第三段階目標として「自教室に戻る復帰（友達との直接的な繋がり）」

４　研究のねらい

児童のWell-being（本研究では、「社会に役に立つ人になること＝奉仕、人に頼らないで自分で行動できるようになること＝自立」を重視する）の実現を目指し、不登校児童、不登校傾向児童、ＳＲすだち利用対象者が、自らの現状を主体的に捉えられるようにするため、「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組が、どのように作用し有効であったのかを検証し、これにより常にベターな進化・改善を目標とした研究を行っていく。また、研究の成果を生かし、新たな不登校児童を出さないための方策を蓄積していく。

５　研究仮説

(1) 第一段階目標としての「家庭から学校へ目を向ける復帰（間接的な人との繋がり）」

本児または保護者との接触の機会を増やし、本児または保護者の考えや思い、悩みを徹底して共感的に受け止めていけば、学校との距離が縮まり、家庭から学校へ目を向けられるようになるのではないか。

(2) 第二段階目標としての「学校へ戻る復帰（大人との直接的な繋がり）」

アンケートをベースにＳＲすだちに居場所をつくり、以下（P5.step1-3）のような取組を実施していけば、教師との距離が縮まり、学校への抵抗が薄れるのではないか。

(3) 第三段階目標として「自教室に戻る復帰（友達との直接的な繋がり）」

友達との接触の機会を段階的に増やし、友達と一緒にできる活動を取り入れていけば、友達との距離が縮まり、自教室に戻れるようになるのではないか。

６　ＳＲすだちについて

ＳＲすだちのいみ

(1) ＳＲすだちは、①しゃかいにやくに立つ人になるため（奉仕）、②人にたよらないでじぶんでこうどうできるようになるため（自立）につくられたへやです。

(2) ＳＲすだちは、クールダウンのへやとしてもつかうことができます。

(3) ＳＲすだちは、じぶんのアイディアを出して、先生といっしょにつくり上げていくことができます。へやは、べんきょうするところと、あそぶところとにわけてつかいます。

ＳＲすだちでのルール

(1) しずかにリラックスできるへやになるようにしましょう。

(2) ＳＲすだちにほかのともだちがいたら、やさしく・なかよくしましょう。

(3) そうだんは、カウンセラーしつでもおこなうことができます。タブレットをつかったなやみそうだんもできます。

(4) かんたんなうんどうができます。

(5) ルールはみんなでつくっていきます。

ＳＲすだち利用対象者　※教師側の押さえ

(1) 児童間のトラブルにより教室で学習することが一時的に困難な状態にある児童

(2) 教室内でのふるまいに課題があり、他の児童の学習を妨害する様子がある児童

(3) 集中して学習に取り組むことができず、教室からの離脱を繰り返す児童

(4) 不登校もしくは不登校傾向にあり、教室に入ることができない児童

(5) 教師とゆっくり話をしたい児童・話をする必要がある児童

７　研究方法

（できる限りの視覚化を図り、児童の自信とやる気、教員のやりがいの向上と負担軽減につなげていく）

(1) 研究の進め方

ア　不登校対策委員会の設置・運営

(ｱ) 年度当初に不登校対策委員会の組織を編成する。状況に応じて出席者の入れ替えをする（不登校対策主任、生徒指導主事、該当担任、ＳＣ、養護教諭等）。

(ｲ) 月１回の不登校対策委員会を開催する。

ａ　委員会開催１週間前にはイントラネット上に資料（支援シート）を載せる。

ｂ　出席者は､論点を整理しておき会に臨む。

ｃ　資料はできるだけ、数値化して表すよう心掛ける。

(ｳ) 児童によって、取組・対応の仕方、有効性等は違ってくるため、本児に適したと思われる支援の創造・実施を検討していく。

イ　不登校対策主任（教頭）を核とした子供の居場所づくり

(ｱ) アンケートや方策、取組・活動の創造・実施

(ｲ) 保護者・児童・担任・関係機関との連携

(2) 検証方法

管理上、不登校児童のレベルをLv.１からLv.３の３段階に分けて検証していく。

Lv.１　完全不登校児童（１か月以上連続して欠席している児童）

「家庭から学校へ目を向ける復帰（間接的な人との繋がり）」について

step１　完全引きこもり児童

手立てとして、電話連絡、家庭訪問、客観的受容度評価（客観的受容度評価とは、接触した日に担任の主観で、本児また保護者の学校に対する受容度を５段階で評価し記録しておくこと）、関係機関との連携を行う。

step２　自宅内でなら学習も可能な児童

手立てとして、オンラインでの繋がり、今日の明るさモニターを行う。

step３　自宅からの外出が可能ながら学校への登校は難しい児童

手立てとして、家庭での目標設定、オンラインでの学習支援を行う。

Lv.２　不登校児童（欠席日数３０日以上の児童で、１か月以上連続した欠席が無い児童）「学校へ戻る復帰（大人との直接的な繋がり）」について

step１　ＳＲすだち・ＳＣ室・通級室での活動ができる児童

手立てとして、面談、ファーストアンケート、すだちアンケート（こころのへんかレーダー）を行う。

step２　部分的登校、ＳＲすだちでの学習ができる児童

手立てとして、本人の目標設定、ルールづくり、スケジュールシート（１日のスケジュール管理）を行う。

step３　週に数日の１日登校、ＳＲすだちでの学習ができる児童

手立てとして、◇◇さんメーター（学校に登校できた回数グラフ）を行う。

Lv.３　不登校傾向児童（病欠以外の理由で、欠席日数が２０日以上３０日未満の児童）「自教室に戻る復帰（友達との直接的な繋がり）」

step１　週に数日の在籍学級での登校、友達との活動ができる児童

手立てとして、◇◇さんメーター（教室に戻れた時間グラフ）、」三者日記（本児－教師－保護者）を行う。

step２　毎日在籍学級への登校ができる児童

手立てとして、郡山市の「心身の健康状態を可視化するツール」を行う。

step３　完全復帰

Ⅲ　研究の実際

１　不登校対策委員会の運営

不登校児童、不登校傾向児童が在籍する学級担任が作成した支援シート資料１をもとに不登校対策主任（教頭）、該当担任等で委員会を開催した。会終了後、不登校児童・不登校傾向児童の支援状況一覧資料２にまとめ、一目で対応状況が分かるようにする。なお、支援シートは、福島県義務教育課「不登校対応資料Vol.5」を参考に自校化したものを使用する。

２　不登校対策主任（教頭）を核とした子供の居場所づくり

Lv.１　完全不登校児童（１か月以上連続して欠席している児童）

(1) ケース１　電話連絡、家庭訪問

担任による電話連絡、家庭訪問を定期的に実施してきた。なかなか話す機会には恵まれなかったが、昨年度末からはＳＣにも同行していただき、粘り強く訪問を続けた。進学について話が出た際には、教頭も同行し、話合いに参加した。ただし、本人には２年間で１度しか会うことが叶っていない。

(2) ケース２　オンラインでの繋がり、関係機関との連携

昨年度、総合教育支援センターのふれあい学級を勧め、何度か参加することができた。第１学期始業式に登校できたが、その後、登校できない日が続いた。定期的に担任が電話連絡、家庭訪問を繰り返し、学校での面談も実施することができた。病気に起因していることもあり、児童の体調に合わせて、オンラインでのやりとりを進め、粘り強くアプローチをしている。明るさモニター資料３については提案はしたものの活用には至っていない。なお、明るさモニターは、認知行動療法の手法を参考に作成したものである。

(3) ケース３　オンラインでの学習支援

授業支援クラウド「ロイロノート」を活用し、家庭学習の支援資料４を行った。具体的には、喜楽研「教科書プリント（国語、算数）」や、単元テストをＰＤＦにして配信し、児童は自由な時間に回答して教頭に返信。教頭が採点をして再び送信をするという方法である。現在では、不登校児童以外にもＳＲす

だち利用対象者を中心に、６名の個別支援を行っている。課題は、個々にあった学年のものを児童・保護者・担任とで相談して選択し、担任がＰＤＦにする。なお、データ配信については、業者、出版社、ＳＡＲＴＲＡＳ事務局にも確認し許可を得て実施している。

Lv.２　不登校児童（欠席日数３０日以上の児童で、１か月以上連続した欠席が無い児童）

※　ケース４～８までは複数を対象に実施

(1) ケース４　面談、ファーストアンケート

学校へ登校できている児童には、始めにファーストアンケート(奉仕・自立アンケート)資料５を実施した。教頭が補足説明をしたり、追加の質問をしたり、雑談を挟んだりしながら行った。それをもとに児童理解・支援シート資料６を作成し、資料として活用した。なお、ファーストアンケートは、文部科学省「不登校に関する実態調査」～平成１８年度不登校生徒に関する追跡調査報告書～を参考に作成したものである。

(2) ケース５　すだちアンケート

同時に、すだちアンケート（こころのへんかレーダー）資料７を実施した。定期的に児童の心理状態を把握し、声かけや支援の参考とした。このアンケートは、不登校児童はもちろん、不登校傾向児童やＳＲすだち利用対象者にも実施しており、変化を見るために定期的に行っている。なお、すだちアンケートは、文部科学省「不登校に関する実態調査」～平成１８年度不登校生徒に関する追跡調査報告書（概要版）～、ＳＣからいただいた論文資料「小学生用不登校傾向尺度の作成と信頼性・妥当性に関する検討」（五十嵐哲也）を参考に作成したものである。

(3) ケース６　スケジュールシート

家庭で規則正しい生活が送れるようにする目的で、スケジュールシート資料８を作成したが活用までには至らなかった。なお、スケジュールシートは、福島県義務教育課「不登校対応資料Vol.5」、令和５年度福島県子どもの居場所づくり支援事業「知恵空間」の資料を参考に作成したものである。

(4) ケース７　ＳＲすだち

昨年度までの保健室登校を、養護教諭の負担軽減を考え、有用的に機能できるよう「ＳＲすだち」資料９を新設した。教室環境としては、民間の事業所を見学し、本校の特別支援教室を参考に、クールダウンスペースともなり得るよう工夫してレイアウトした。

(5) ケース８　◇◇さんメーター（学校に登校できた回数グラフ）

◇◇さんメーター（学校に登校できた回数グラフ）資料10を作成し、自分の頑張りを振り返れるよう、教室で過ごした時間を可視化して児童に渡した。ケース６のシートもそうであるが、児童が自己マネジメント力を高めることができるようにとのねらいもある。

Lv.３　不登校傾向児童（病欠以外の理由で、欠席日数が２０日以上３０日未満の児童）

(1) ケース９　◇◇さんメーター（教室に戻れた時間グラフ）

学級での時間割をもとに、◇◇さんメーター(教室に戻れた時間グラフ)資料11を作成。児童が教室に戻れた時間をパーセンテージで表し、学校での児童の頑張りを、児童－保護者－教師が共有し、家庭での称賛にもつながるよう、毎日家庭への配信を行った。

３　個別支援

(1) 朝の家庭訪問

新たな不登校児童を出さないため、少しでも行き渋りの兆候が見られた時には、朝の時間、積極的に家庭まで迎えに行くようにした。

(2) 関係機関とのZoom会議資料12

学校が中心となり、学校内（保護者、児童相談所、相談支援事業所、訪問看護ステーション、放課後デイサービス、担任、教頭）と、福島県総合療育センター医師とをリモートでつなぎ、児童支援についての共通理解を図るために、Zoom会議を開催した。

(3) 栽培活動資料13

手つかずの花壇を利用し、不登校児童や不登校傾向児童、特別支援教室在籍児童で栽培活動を行った。ナス、インゲン、キュウリ、トマト、サツマイモ、スイカ、イチゴを栽培。苗の定植から世話、収穫と行った。

(4) 九九の習得 資料14

ＳＲすだち利用対象者（４年生）に、九九の習得を行った。まずは、九九の習熟度テストを行い現在の状態を把握。次に、ランダムに８１問の問題を１０回ほど出題し苦手な式を洗い出した。最後に、洗い出した式をランダムに並べ替えて繰り返し出題した。問題作成には、チャットＧＰＴを活用した。

(5) 計算ランキング 資料15

ＳＲすだち利用対象者（３年生）に、郡山市で採用しているアプリ「計算力トレーニング（JoyPlot）」を活用し、たし算とひき算の問題で、解答時間をランキング形式で自己の記録と競い合わせた。

(6) ご褒美シール 資料16

ＳＲすだち利用対象者（１年生）に、オペラント条件付けの手法を用いた。目標段階を設定し、対象者自身が頑張ったと評価した場合、担任が頑張ったと認めた場合に、教頭の下で、ご褒美シールを貼ってあげた。「〇時間在籍学級にいることができたら」、「友達に暴言暴力をしなかったら」など、定期的に本人と話し合い、目標段階を強化していった。

Ⅳ　成果と課題

１　不登校対策委員会の設置・運営

＜評価Ｂ＞達成率８０％

昨年度まで、生徒指導主事が不登校についての運営を管理し報告するのみであったが、今年度から生徒指導と不登校対策を分けることで、役割が明確になるとともに、縦の報告・連絡・相談体制が確立し、支援状況の把握が容易になった。ただし、月１の会議が増えたことで負担感が増したという声も聞かれた。２学期からは、月１の資料は作成するが、①話合いを希望する担任、②不登校対策主任（教頭）が話合いが必要と判断した児童の担任のみで構成するよう改善していきたい。

不登校対策委員会の設置で、支援状況の把握が容易になった。委員会の運営については、負担感を減らす改善が必要である。

２　不登校対策主任（教頭）を核とした子供の居場所づくり

Lv. １　「家庭から学校へ目を向ける復帰（間接的な人との繋がり）」 達成率９０％

(1) ケース１　電話連絡、家庭訪問

＜評価Ａ＞

図１　Ａ児出席率（※変化無し）

ケース1	休み始め	R5.4-7	R6.4-7
A児	H31.1-	0.0%	0.0%

担任が足繁く訪問したこと、粘り強く「一歩前に進んでみませんか？」と言葉をかけたことで、少しずつ保護者の学校に対する態度が軟化したように感じる。ＳＣ、教頭の訪問は、保護者にとっては煩わしいかもしれないが、担任とは違った気持ちの変化を生むのかもしれない。顔を合わせ、家庭と学校がつながっていることは、地道ではあるが、もっとも基本的で、効果的な手段だと再認識することができた。ただし、保護者との会話の中で、「兄も不登校であったが、成人した今楽しく遊びに出かけられている。不登校でも心配ない。」という言葉が気がかりではある。客観的受容度評価 資料17 については、評価規準はできているので活用の段階まで来ている。

(2) ケース２　オンラインでの繋がり、関係機関との連携＜評価Ａ＞

図２　Ｂ児出席率（※７月から再登校）

ケース2	休み始め	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6avg.
B児	R6.4-	6.3%	0.0%	0.0%	28.6%	7.0%

保護者との面談の中で「不登校でも生活保護を受ければ、将来何とか暮らしていける」という言葉が気がかりではあったが、７月に学校に再登校するようになった。本児の体調が良くなったということもあるだろうが、郡山市総合教育支援センターふれあい学級での

活動や、担任の努力が、本児の心に通じ、心情に変化をもたらせた可能性も高い。今後、明るさモニターを用いた心の経過観察へとつなげていきたい。

(3) ケース３　オンラインでの学習支援

＜評価Ａ＞

図３　Ｃ、Ｄ児出席率（※昨年比１０％増）

ケース3	休み始め	R5.4-7	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6avg.
C児	R5.9-		37.5%	28.6%	5.0%	14.3%	21.1%
D児	R4.11-	15.3%	18.8%	42.9%	20.0%	21.4%	25.8%

これはかなりの効果が出ていると感じている。宿題や学習に抵抗があった児童も、毎日確実に提出することができており、ＩＣＴの力である。ただ、不登校児童、不登校傾向児童、ＳＲすだち利用対象者に、一般的に多く見られる状態の１つがデジタル依存であることを考えると、この支援法には学校側、家庭側それぞれに明確なルールが必要である。

検証結果　本児や保護者との定期的な接触を通じて、学校と家庭の関係が強化され、結果として、本児または保護者の態度や心情、学習意欲に良い変化が見られたことから、この取組の有効性が示された。また、担任と関係機関との密接な連携は、本児の学校への復帰や学習への積極性向上に寄与していることが観察され、家庭から学校へ目を向ける１つのきっかけに成り得ることが分かった。一方で、家庭環境やデジタル依存などの課題も危惧され、今後の改善点として考慮すべき点が明確になった。

Lv. ２　「学校へ戻る復帰（大人との直接的な繋がり）」達成率７０％

(1) ケース４　面談、ファーストアンケート

＜評価Ｂ＞

現在までに、１０名の児童を対象にアンケートを実施している。教頭が対応したときのことを中心に補助簿としての役割を果たしている。なかなか全学年に対応できる質問項目というのは難しく、アンケートは教頭が補助をして行っている。今後は、自分一人で回答できるよう改善を加えたい。また、担任は、校務支援システムの「気づき」内に支援状況を記録しているため、ファーストアンケートと連携できるようにしていきたい。

(2) ケース５　すだちアンケート＜評価Ｂ＞

取組としてみれば、児童の心理変化を見るのにはいいのだが、変化を見る分析の仕方にはまだまだ改善の余地がある。現在までに、１１名の児童を対象にアンケートを実施、活用しており、「保健室に頻繁に来る児童へアンケートをしてもらえますか」と養護教諭から言われ、実施したこともあった。心に不安を抱えている児童や不登校になりそうな児童、生徒指導が必要な児童など、対象を広げていくと共に、児童の心の状態を知るため、話のきっかけを掴むため、担任にも幅広く活用してもらいたい。

(3) ケース６　スケジュールシート

＜評価Ｃ＞

こちらについても提案はしたのだが、明るさモニター同様、実施までには至っていない。手書きということもあり、生活習慣が乱れがちな児童にとっては、ハードルが高いのかもしれない。タブレット上で使えるものへと改善を加えていきたい。

(4) ケース７　ＳＲすだち＜評価Ｂ＞

昨年度の段階では、教頭が運営に関われると考えていたが、諸事情により、１日に１時間、運営に携われるかどうかの状況が続いた。その他の教職員では、確実に負担過重となってしまう。状況に応じた運営の工夫が必要である。現在まで、週１回の分室、部分的登校の児童が教室に入る前に心の準備をする部屋、教室からの離脱を繰り返す児童の学習支援の部屋、クールダウンの部屋、として機能してきた。夏期休業中には、植物や遊具を設置してＳＲすだち教室内の環境整備を行う予定である。また、ＳＲすだち利用者に利用日記資料18を書かせることで、利用時間内の自分自身の振り返りをさせていきたい。

(5) ケース８　◇◇さんメーター（学校に登校できた回数グラフ）＜評価Ｃ＞

使用した児童は２名。２名とも、昨年度より今年度は登校回数が増えたスタートを切れたが、どちらも１学期途中で週１登校となってしまった。これだけでは、効果が見られたとは考えにくい。後述する◇◇さんメーター（教室に戻れた時間グラフ）は一定の効果があったことと比較すると、ポイントとなるのは、保護者に直接伝えたか否かである。称賛の回数が関係するのかもしれない。

検証結果　以上のケーススタディを通じて、アンケートを基盤としたＳＲすだちでの取組が、児童と教師との距離を縮め、学校への抵抗を薄れさせる効果が一部で確認され、子供たちに今後どのように居場所をつくっていけば良いかの重要な手がかりとなった。しかし、在籍学級への登校ができるようになった児童、変化が見られない児童、逆に欠席が増えた児童と、個々に違いが見られたのも事実である。他には、タブレットを活用したアンケートの項目や利用方法の改善が課題として残された。これからも効果的な支援方法の確立を目指し、児童と教師や学校との距離感が更に近づくよう努力しなければならない。

Lv. ３　「自教室に戻る復帰（友達との直接的な繋がり）」達成率９０％

(1) ケース９　◇◇さんメーター（教室に戻れた時間グラフ）＜評価Ａ＞

教室に戻れた時間を短いスパンで見直し、目標を少しずつステップアップ。３月を目標に１００％が目指せるよう、グラフ化していった。その日の反省を教頭が記入し、家庭へ送信。反省は、成長が見られたことを多く記入した。家庭でのコミュニケーションと称賛が増える結果につながったのではないかと想像できる。ケース８と比較すると、この取組は、自己マネジメント力を高めると共に、自己肯定感も高めたのではないかと考える。

検証結果　短期間での目標設定とグラフ化によるできる限りの視覚化を図り、家庭との連携を図ったことは、児童の自己マネジメント力の向上と自己肯定感を高めるのに大変有効であり、結果として友達との距離も縮まり、学期末の教室復帰へとつながったと考える。課題としては、自教室での活動との調整が難しかったことである。

３　個別支援　達成率９５％

(1) 朝の家庭訪問＜評価Ａ＞

朝という時間、児童は登校への不安が増し、保護者は焦り、最も手助けを必要とする時間であろうと考え、保護者の了解を得てから、教頭、教務主任が積極的に朝の迎えに行った。迎えに行かなくとも不登校にならなかったかもしれないが、３名の行き渋りが解消した。

(2) 関係機関とのZoom会議＜評価Ａ＞

図４　Ｅ児出席率（※フリースクール復帰）

Zoom会議	休み始め	R5.12	R6.1	R6.2	R6.3	R6.4-	R6avg.
Ｅ児	R5.12-	84.6%	73.3%	63.2%	60.0%	100.0%	100.0%

会議開催（R6.2.7）後、今年度に入り、本児はフリースクールに休まず通えるようになった。また、会議以降、頻繁に連絡を取れる状態となり、現在行っている支援の共有と様々な支援方法について手立てを広げることができている。夏季休業中には、フリースクールとの話合いをもつ予定である。

(3) 栽培活動＜評価Ａ＞

図５　Ｆ児出席率（※昨年比１７％増）

栽培活動	休み始め	R5.4-7	R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6avg.
Ｆ児	R4.11-	12.5%	50.0%	19.0%	30.0%	21.4%	29.6%

植物は、世話をしないと枯れてしまうことを該当児も意識しているためか、昨年度に比べ登校回数が増えた。水やりや人工授粉に熱心に取り組み、休日も世話に来ることもあったようである。収穫は楽しいらしく、採り立てのイチゴを食べたり、自分が希望して育てているナスや、キュウリ、インゲンを収穫し、家で食べ満足しているようでもある。スイカとサツマイモの収穫を心待ちにしている。

(4) 九九の習得 ＜評価Ａ＞

３名の児童に毎日支援してきた。１名は完全習得。１名は卒業試験を残すのみ。１名は６×９と９×６の習得だけ。日々、習得数が増えるためやる気も継続していた。チャットＧＰＴは、違う問題構成を瞬時に作成してくれるためかなりの時間短縮になった。

(5) 計算ランキング＜評価Ａ＞

たし算１００問を解くのに６分かかっていたのが、記録更新のたびに自信を付け、自教室の友達、他の学年の児童とも勝負を挑むようになっていった。「自分は計算が苦手。」と言っていた児童が、毎回３分を切るようになり、友達からも「◇◇くん、すごいね」と称賛されていた。ひき算やかけ算の問題にも意欲的に挑戦する姿が忘れられない。

(6) ご褒美シール＜評価Ｂ＞

２名の児童に支援してきた。１名は意欲が継続し効果が現れたが、１名は条件に対する要求が増えたり、目標に甘くなったりと、その時々の感情で対応することが多かった。

朝の家庭訪問は、新たな不登校児童を出さないための早期対応として不可欠であった。関係機関とのZoom会議を設定できたことは、情報を共有し、支援の幅を広げるのに有効であった。個に応じた支援（目標・目的の設定）は、児童に満足感や達成感、自信、意欲を与えることができた。今後は、特性に応じた支援の更なる強化と、各教室で体調や心の状態を見るため、郡山市の「心身の健康状態を可視化するツール」の活用を図りたい。また、様々な取組が、すぐに教員のやりがいの向上や負担軽減に結び付いたかは個人の感じ方にも依るため、意見を集約し取組を見直してより良いものにつくり上げていきたい。併せて、この研究には、担任、そして７学年の先生方の多大なる協力があってこそ為し得たものである。先生方の努力に、感謝と敬意を表したい。

Ⅴ　今後の実践に向けて

常にベターな進化・改善を目標として研究してきた取組の強化を振り返り、研究の成果と課題をもとに、今後の実践に向けた具体的方針を以下の通りに考えた。

具体的方針

1　支援状況の把握のため「不登校対策委員会の運営形態」を見直す。
2　児童や保護者の心情に良い変化をもたらすため「定期的な接触」の機会を継続する。
3　居場所づくり、児童支援のため「アンケートやＳＲすだち」の効果的な活用を図る。
4　自己マネジメント力、自己肯定感向上のため「目標設定とグラフ化」を用いる。
5　課題をのりこえる力（レジリエンス）育成のため「ＳＲ利用日記」を書かせる。
6　支援方法の幅を広げ、情報共有と理解を深めるため「関係機関との連携」を図る。
7　児童に満足感や達成感、自信、意欲を与えるため「特性や状況に応じた個別支援」を行う。
8　担任への支援の質と量を向上させるため「担任との連携方法」を確立する。
9　児童や保護者と信頼関係を築くため「家庭での目標設定や三者日記」を導入する。
10　家庭へのアドバイス支援を行っていくため「デジタル端末使用率」を調査する。
11　新たな不登校児童を出さないため「研究成果を活用した防止策」を創出する。

これらを踏まえて、すだちプロジェクト「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化、教頭としてできることを、今後も精一杯推進し続けていきたい。

Ⅵ　エピローグ

十数年前の卒業式。不登校傾向を示していた◇◇さん。「毎日、迎えに来てほしくなかった。」と、最後にぽつり。よかれと思ってやっていたことが、この子をこんな思いにさせていたのか。何が正解だったのか。子供にとっての安心できる本当の居場所とは何なのか。日々、葛藤と創造の連続である。

資料、参考文献・参考施設

資料１　支援シート

支　援　シ　ー　ト　（　担　任　用　）　　記録日　6年　7月　8日　　最終接触日　6年　7月　8日

児　童　名												
出　席　者												
苦戦していること												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
欠席日数												
プラス面 マイナス面 実施したこと												
支援上の悩み												
目標												
今後の方針 分担 期間												
不登校対応 委員会予定日	4/22	5/22	6/26	7/17	8/26	9/25	10/23	11/27	12/11	1/29	2/26	

資料２　支援状況一覧

R6不登校児・不登校傾向児　支援状況一覧　　R6.7.19

No.	氏名	学級	Level									関係機関										最終接触日	備考
			Ⅰ家庭			Ⅱ学校			Ⅲ学級														
			1連絡訪問	2オンライン	3家庭の目標	1アンケート	2本人の目標	3日記	1メーター	2メーター	3完全復帰	SC	通級	総教	子家支	児相	訪デイ・訪看	民生委・児童委	医療	警察	その他		
1									+3			○		○									総教と連係開始
2									+3			○											9月検査へ　登校できる日を探る
3						-3						○	○										オンライン支援　放課後トラブル　家庭開始
4												○		○									総教と連係開始
5												○											
6									+4				○										オンライン支援開始
7													○										
8																							
9			±0									○											SCへ、接触回数増
10																							面談実施へ
11						±0						○	○			○	○		○				家庭内暴力減・FSとの連携
12									±0			○		○					○				週２回を目指す
13									+5					○									SCへ・定期的なオンラインへ

資料３　明るさモニター：Googleフォーム

明るさモニター

気分が明るくなったときにきろくしておくアンケートです

＊必須の質問です

1。 あなたの名前は？ *

2。 今日は何曜日？ *

1 つだけマークしてください。

- 月
- 火
- 水
- 木
- 金
- 土
- 日

3。 気分が明るくなったのはいつ？ *

1 つだけマークしてください。

- 朝
- 昼
- 夜

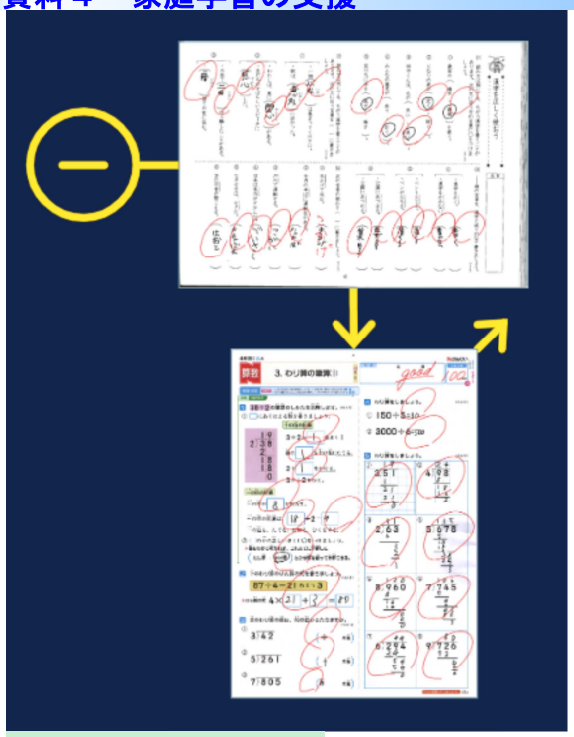
4。 気分が明るくなったのは何をしたとき？ *

5。 明るさ何パーセント？ *

1 つだけマークしてください。

- １０%
- ２０%
- ３０%
- ４０%
- ５０%
- ６０%
- ７０%
- ８０%
- ９０%
- １００%

資料４　家庭学習の支援



そういえば、学級の宿題金曜日に全て終わったので、夏休みの宿題欲しいです。だけどできれば少なめで笑笑。学習は、教頭先生の宿題によって結構わかるところが多くなってきました。月曜日、7月22日フリースクールに行って中学校レベルの勉強をしてきました(プリントで)。でも漢字の読みは結構好きなんです。話は戻ってロイロノート学習については結構いいと思います。これからもやっていきたいと思います。2学期は続けてスタサプなどもやっていきたいと思います。

児童の感想

資料５　ファーストアンケート（奉仕・自立アンケート）：Googleフォーム

ファーストアンケート

社会の役に立つ人になるため、人に頼らないで自分で行動できるようになるためのアンケートです

＊必須の質問です

1　きっかけ

4。 問１　あなたが学校を休（やす）みはじめた、教室（きょうしつ）に行（い）けなくなったときのきっかけは何（なん）ですか。思（おも）いあたるものすべてをえらんでください。 *

当てはまるものをすべて選択してください。

- [ ] 友達との関係（いやがらせやいじめ、けんかなど）
- [ ] 友達との関係（それいがい）
- [ ] 先生との関係（先生とあわない、先生がこわい、ちゅういがおおい、たたくなど）
- [ ] 勉強が分からない（じゅぎょうがおもしろくない、せいせきがよくない、テストのてんがよくないなど）
- [ ] クラブや特設活動の友達との関係（ともだちからのいじめ、ほかのともだちとうまくいかなかったなど）
- [ ] 学校のきまりなどの問題（学校のきまりがきびしいなど）
- [ ] 入学、転校、進級などして学校や学級になじめない（てんこう、しんきゅうしたときになじめなかったなど）
- [ ] 学校生活が合わない（がっこうにいるのがにがて）
- [ ] 親との関係（おやがおこる、おやのことばやたいどにイライラする、おやとのかいわがほとんどないなど）
- [ ] 親の考え（おやが学校にいかなくてもいいといっている）
- [ ] 家族の不和（おとうさんとおかあさんのなかがわるい、おじいちゃんおばあちゃんとおやのなかがわるいなど）
- [ ] 家族の生活環境の急激な変化（おとうさん、おかあさんがしごとでとおくにでかけている。おとうさん、おかあさんがいなくなった、おとうさん、おかあさんのしごとがかわったなど）
- [ ] 身体の不調（学校にいこうとするとおなかがいたくなるなど）
- [ ] 生活リズムの乱れ（あさ、おきられないなど）
- [ ] インターネットやゲーム、動画視聴、ＳＮＳなどの影響（いちどはじめるとやめられない、学校よりたのしいなど）
- [ ] 兄弟姉妹や親しい友達の中に、学校を休んでいる人がいて影響を受けている（きょうだいしまいがやすんでいるのに、どうしてじぶんだけ学校にいかなければならないのかとおもってしまう）
- [ ] なぜ学校に行かなくてはならないのかが理解できない（学校にいかなくてもいいとおもっている）
- [ ] きっかけがなにかじぶんでもよくわからない
- [ ] とくにきっかけはないとおもう
- [ ] その他: _____

2　休（やす）み始（はじ）めた、教室（きょうしつ）に行（い）けなくなった学年（がくねん）・時期（じき）

問２　あなたが最初（さいしょ）に学校を休（やす）みはじめた、教室（きょうしつ）に行（い）けなくなったのは、何年生（なんねんせい）の何月頃（なんがつごろ）ですか。学年（がくねん）と時期（じき）のそれぞれをえらんでください。

5。 a．学年 *

1 つだけマークしてください。

- １年生
- ２年生
- ３年生
- ４年生
- ５年生
- ６年生
- わからない

6。 b．時期 *

1 つだけマークしてください。

- ４～６月
- ７～９月
- １０～１２月
- １～３月
- わからない

3　継続の理由（つづいているりゆう）

7。　問３　あなたが学校を休（やす）んでいる、教室（きょうしつ）に行（い）けなくなっているのが続（つづ）いている理由（りゆう）は何（なん）ですか。思（おも）いあたるものすべてをえらんでください。 *

当てはまるものをすべて選択してください。

- [ ] いやがらせやいじめをする生徒の存在や、友達との人間関係のため（まだいやがらせやいじめがつづいているため）
- [ ] 先生との関係（先生がこわい、注意が多い、たたくなど）のため（また先生がそうなるとおもってしまうため）
- [ ] 家で遊ぶため（いえであそぶため）
- [ ] 無気力でなんとなく学校へ行かなかったため（やるきがでないため）
- [ ] 学校へ行かないことをあまり悪く思わなかったため（学校にいかなくてもいいとおもっているため）
- [ ] 友達が迎えに来たり強く催促されたりすると学校へ行くが、長続きしなかったため（ともだちがむかえにきたり、ともだちから学校にくるようにいわれなくなったため）
- [ ] 学校へ行こうという気持ちはあるが、身体の調子が悪いと感じたり、ぼんやりとした不安があったりしたため（学校にいきたいのに、からだのちょうしがわるくなったり、ふあんになっているするため）
- [ ] なぜ学校に行かなくてはならないのかが理解できず、自分の好きな方向を選んだため（じぶんのしょうらいにひつようなものをみつけたため）
- [ ] 親から登校するようにすすめられず、家にいても親から注意されなかったため（おやからなにもいわれなくなったため）
- [ ] 朝起きられないなど生活リズムが乱れていたため（あさおきられないなどせいかつリズムがみだれているため）
- [ ] 勉強について行けなかったため（べんきょうについていけなくなったため）
- [ ] 先生から学校から登校するように働きかけがなかったため（先生から学校にくるよういわれなくなったため）
- [ ] 保護者やまわりの人に学校を休んでもいいと助言されたため（やすんでもいいとアドバイスをうけたため）
- [ ] わからない
- [ ] その他: _____

4　支援のニ　ズ（してもらいたいこと）

8。　問４　先生にどのようなことをしてもらいたいですか。思（おも）いあたるものすべてをえらんでください。 *

当てはまるものをすべて選択してください。

- [ ] 中学校へ向けての相談や手助け（これからのことについてのアドバイス）
- [ ] 学校の勉強についての相談や手助け（べんきょうについてのアドバイス）
- [ ] 将来生きていくためや仕事に役立つ技術や技能の習得についての相談や手助け（しょうらいのためのアドバイス）
- [ ] 自分の気持ちをはっきり表現したり、人とうまくつきあったりするための方法についての指導（じぶんをかえるためのアドバイス）
- [ ] 友人と知り合えたり、仲間と過ごせたりする居場所（ともだちとすごすためのアドバイス）
- [ ] 心の悩みについての相談（しんぱいしていることについてのアドバイス）
- [ ] 規則正しい生活習慣についての指導（いえでのせいかつリズムについてのアドバイス）
- [ ] アドバイスをうけたくない
- [ ] その他: _____

5　休（やす）んでいるときの気持（きも）ち

9。　問５　学校を休（やす）んでいる、教室（きょうしつ）に行（い）けてない時（とき）のあなたの気持（きも）ちについて、当（あ）てはまるものすべてをえらんでください。 *

当てはまるものをすべて選択してください。

- [ ] ほっとした・らくなきもちだった
- [ ] じゆうじかんがふえてうれしかった
- [ ] はやく学校に、きょうしつにもどりたかったが、もどれなかった
- [ ] べんきょうのおくれがふあんだった
- [ ] しんきゅう（○年生になること）がふあんだった
- [ ] じぶんのことがいやでしかたなかった
- [ ] とくにもんだいをかんじたり、きにしたりすることはなかった
- [ ] じぶんじしんはわるいこととおもわなかった。
- [ ] 学校の先生たちがどうおもっているかふあんだった
- [ ] 学校のともだちなどがどうおもっているかふあんだった
- [ ] かぞくがどうおもっているかふあんだった
- [ ] きんじょのひとがどうおもっているかふあんだった
- [ ] その他: _____

6　学習ニーズ（べんきょうでしてもらいたいこと）

10。　問６　勉強（べんきょう）を続（つづ）けたいと思（おも）っていますか。どちらかをえらんでください。 *

1つだけマークしてください。

- ◯ おもっている
- ◯ おもっていない

11。　問６－１　問６で「１．おもっている」を選（えら）んだ方（かた）にお聞（き）きします。勉強（べんきょう）を続（つづ）けやすいのはどのような方法（ほうほう）でしょうか。あてはまるものすべてをえらんでください。　※　わからないばしょやひとについてはしつもんしてください。 *

当てはまるものをすべて選択してください。

- [ ] 学校の教室以外（いがい）の場所（ばしょ）で勉強（べんきょう）する
- [ ] 先生が家庭（かてい）に訪問（ほうもん）し勉強（べんきょう）する
- [ ] 総合教育支援センター（ふれあいがっきゅう、ほうぶんしつ、サテライトぶんしつ）にかよう
- [ ] 民間施設（「フリースクール」とよばれるばしょなど）にかよう
- [ ] 民間の教育機関（がくしゅうじゅくなど）にかよう
- [ ] 手紙（てがみ）、ＦＡＸ、電子（でんし）メール、インターネット、電話（でんわ）などを使（つか）って教（おし）えてもらいながら家庭（かてい）で勉強（べんきょう）する
- [ ] 「２．おもっていない」をえらんだ。
- [ ] その他: _____

12。　問６－２　問６で「２　おもっていない」を選（えら）んだ方（かた）にお聞（き）きします。学校以外（いがい）であっても勉強（べんきょう）を続（つづ）けたいと思（おも）わないのはなぜですか。いちばん近（ちか）いものをひとつだけ選（えら）んで○をつけてください。 *

1つだけマークしてください。

- ◯ べんきょうがきらいだから
- ◯ べんきょうにいみがあるとはおもえないから
- ◯ べんきょういがいにやりたいことがあるから
- ◯ 学校いがいでべんきょうをつづけるくらいなら学校へいくから
- ◯ なにもやるきがしないから
- ◯ 「１．おもっている」をえらんだ。
- ◯ その他: _____

7　施設の利用希望（がっこういがいのきぼう）

13。　問７　１～８のような場所（ばしょ）を利用（りよう）したり、９～１３のような人に相談（そうだん）したりしてみたいですか。利用したり相談したりしてみたいものすべてをえらんでください。　※　わからないばしょやひとについてはしつもんしてください。 *

当てはまるものをすべて選択してください。

- [ ] 総合教育支援センター（ふれあい学級、方部分室、サテライト分室）
- [ ] こども家庭支援課
- [ ] 児童相談所、福祉事務所
- [ ] 福島県教育センタ　「ダ-イヤルＳＯＳ」・ふくしま子どもＳＮＳ相談
- [ ] 保健所・保健センター
- [ ] 病院・診療所
- [ ] 民間施設（「フリースクール」と呼ばれる場所など）
- [ ] 民間の機関（心理相談・カウンセリングなど）
- [ ] 学校の養護教諭（ほけんしつの先生）
- [ ] 学校の先生（たんにんの先生）
- [ ] 学校の先生（そのほかの先生）
- [ ] スクールカウンセラー
- [ ] スクールソーシャルワーカー
- [ ] なにもりようしたくない
- [ ] その他: _____

資料６　児童理解・支援シート

取扱注意

児童理解・支援シート

学校名　　郡山市立桜小学校

よみがな　　0
児童名　　0

更新日　　0

児童理解・支援シート

更新日	令和６年７月８日
学年組	
担任名	

【基本情報】

よみがな			生年月日		
児童名		男		携帯番号	勤務先
父親名		父			
母親名		母			
住所					

支援をする上での基本的情報・家族構成

【学年別欠席日数】　休み始めた・教室に行けなくなった学年・時期　　年生　　月

過年度						今年度										
小1	小2	小3	小4	小5	小6	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3

【アンケートより】

型	無気力型　遊び・非行型　人間関係型　視野型　その他型
きっかけ	
継続理由	
支援・学習のニーズ	
備考	
考察	

【支援経過】

年　月　日	支　援　経　過

資料７　すだちアンケート（心の変化レーダー）：Googleフォーム

すだちアンケート

あなたのこころのへんかをしるためのアンケートです

* 必須の質問です

1は、「いいえ」　2はどちらかといえば「いいえ」　3は、どちらかといえば「はい」　4は「はい」です。

4。 Aa　がっこうは、たのしいですか*

1つだけマークしてください。

1　2　3　4

いい ○ ○ ○ ○ はい

5。 Ab　せんせいとのかんけいは、いいですか*

1つだけマークしてください。

1　2　3　4

いい ○ ○ ○ ○ はい

6。 Ac　がくしゅうは、がんばっていますか*

1つだけマークしてください。

1　2　3　4

いい ○ ○ ○ ○ はい

7。 Ad　ともだちとのかんけいは、いいですか*

1つだけマークしてください。

1　2　3　4

いい ○ ○ ○ ○ はい

8。 Ba　かぞくとのかんけいは、いいですか*

1つだけマークしてください。

1　2　3　4

いい ○ ○ ○ ○ はい

9。 Bb　いえは、たのしいですか*

1つだけマークしてください。

1　2　3　4

いい ○ ○ ○ ○ はい

10。 Bc　あさごはん、ひるごはん、ばんごはんをたべていますか*

1つだけマークしてください。

1　2　3　4

いい ○ ○ ○ ○ はい

11。 Bd　はやね、はやおきをしていますか*

1つだけマークしてください。

1　2　3　4

いい ○ ○ ○ ○ はい

12。 Ca　ふあんやかなしさ、いやなことは、ないですか*

1つだけマークしてください。

1　2　3　4

いい ○ ○ ○ ○ はい

13。 Cb　イライラやドキドキがつづくことは、ないですか*

1つだけマークしてください。

1　2　3　4

いい ○ ○ ○ ○ はい

14。 Cc　しゅみは、ありますか*

1つだけマークしてください。

1　2　3　4

いい ○ ○ ○ ○ はい

15。 Cd　しょうらいのゆめやもくひょうは、ありますか*

1つだけマークしてください。

1　2　3　4

いい ○ ○ ○ ○ はい

16。 Da　学習へのサポートは、ひつようないですか*

1つだけマークしてください。

1　2　3　4

いい ○ ○ ○ ○ はい

17。 Db　かぞくやせんせいにそうだんしたいことは、ないですか*

1つだけマークしてください。

1　2　3　4

いい ○ ○ ○ ○ はい

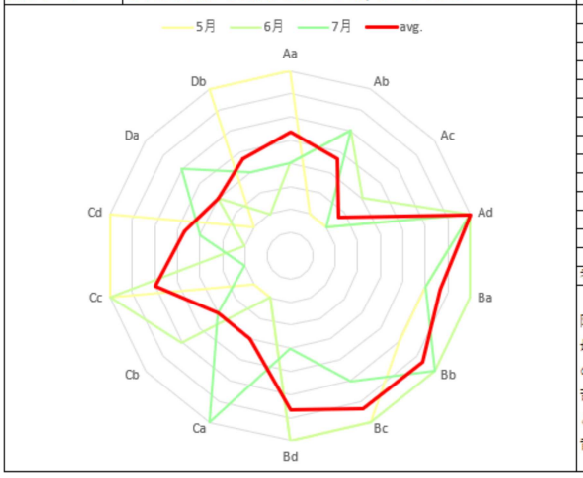
18。 Dc　そうだんしたいことがあるばあいには、かいてください

いじょうで、アンケートはおわりです

すだちアンケートから

年　組　番　名前

			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	avg.
Aa学校	がっこうは、たのしいですか	Aa		4	2	2									2.67
Ab学校	せんせいとのかんけいは、いいですか	Ab		1	3	3									2.33
Ac学校・家庭	がくしゅうは、がんばっていますか	Ac		1	2	1									1.33
Ad学校・家庭	ともだちとのかんけいは、いいですか	Ad		4	4	4									4
Ba家庭	かぞくとのかんけいは、いいですか	Ba		3	4	3									3.33
Bb家庭	いえは、たのしいですか	Bb		3	4	4									3.67
Bc家庭	あさごはん、ひるごはん、ばんごはんをたべていますか	Bc		4	4	3									3.67
Bd家庭	はやね、はやおきをしていますか	Bd		4	4	2									3.33
Ca心身	ふあんやかなしさは、ないですか	Ca		1	1	4									2
Cb心身	ストレスやプレッシャーは、ないですか	Cb		1	3	2									2
Cc心身	しゅみは、ありますか	Cc		4	4	1									3
Cd心身	しょうらいのゆめやもくひょうは、ありますか	Cd		4	1	2									2.33
Daサポート	学習へのサポートは、ひつようないですか	Da		1	2	3									2
Dbサポート	かぞくやせんせいにそうだんしたいことは、ないですか	Db		4	1	2									2.33
Dcサポート	そうだんしたいことがあるばあいには、かいてください	Dc	記述												



月	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
0	
1	
2	
3	

考察

始めは、学校は楽しいと答えていたものの、回を重ねることで本心が見えてきた。初回以降、先生が話を聞き入れてくれたと感じていることが分かる。聞き取りをしていくうちに、母子分離不安が考えられるようになった。グラフからは、家庭での充実ぶりがうかがえたものの、裏を返せば家を離れたくないということかもしれない。また、友達との関係づくりが苦手なようで、特定の友達とは仲良く過ごしているが、新しい友人関係を築けないということも分かってきた。趣味や将来についても曖昧に答えることが多くなり、初めのうちは、本音を話せなかったのかもしれない。

資料８　スケジュールシート

スケジュールシート

名前

Z ねていたじかん
O そとへいっていたじかん（がっこう、そとあそび、じゅく、ならいごと、かいものなど）
N いえでデジタルデバイスいがい（ごはん、がくしゅう、どくしょ、あそび、ふろなど）
D いえでデジタルデバイス（スマホ、タブレット、パソコン、テレビ、ゲームなど）

時間帯		ごぜん						ごご						よる				よなか					よる	
日/曜		6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	0	1	2	3	4	5
1	月																								
2	火																								
3	水																								
4	木																								
5	金																								
6	土																								
7	日																								
8	月																								
9	火																								
10	水																								
11	木																								

資料９　ＳＲすだち（立ち上げの文書と写真）

ＳＳＲ（スペシャルサポートチーム）の設置について

R6.2.16

○　鈴木個人として考えていること

（1）願い

保健室登校児童や職員室に来る児童の学びの場や相談の場を作り出し、
個々の成長に合わせたそれぞれの巣立ち・成長を実現させてあげたい。

その機能を持つ部屋が保健室ではなく、
ＳＳＲ（スペシャルサポートルーム）となるようにしたい。
養護教諭の負担軽減にも繋がる。保健室登校からサポートルーム登校へ。

児童と教職員が対話を通して様々な面からアプローチしていき、
新しい環境、新たな学びの中で自分を見つめ、自分を発見し、
自分が主となる居場所を創ってもらいたい。

（2）ＳＳＲ立ち上げとなれば　…　少しずつ整備

・　会議室をＳＳＲ　１階多目的室（旧パソコン室）を会議室
・　必要な物　…　机・いす４セット
・　パーティション、クールダウンスペース、テレビ、ゲーム、遊具、タイマー　など

（3）不登校傾向児（不登校対策委）と離席児（生徒指導委）は棲み分けする。

（4）運営方法

・　主が教頭となり、主に７学年で対応。

【ＳＳＲ設置についての裏付参考資料】

文科省

「誰一人取り残されない学びの保障」に向けた取組の緊急強化
～　令和５年１０月１７日　～
不登校児童生徒等の学びの継続事業【別添１】
○　校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム）
～「不登校の児童生徒への支援の充実について（通知）」令和５年１１月１７日～

福島県

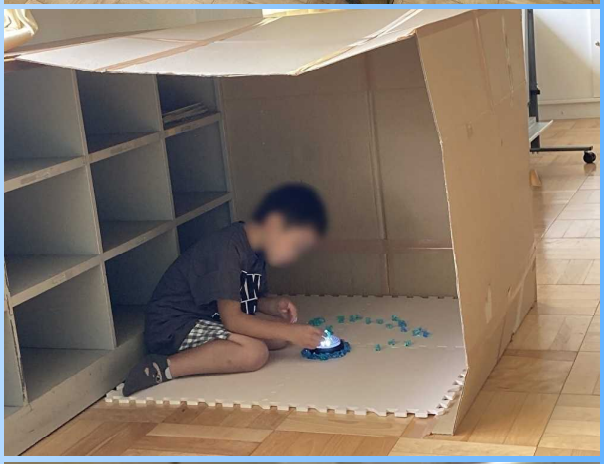
福島県不登校児童生徒支援センター（roomF）
○　ＳＳＲ（スペシャルサポートルーム）の取組を支援しつつ、子どもたちの学びの選択肢の一つとしての機能を強化する。
～「多様性を力に変える教育の実現について」令和５年２月２４日～

郡山市

不登校対策でできること1
○　ＳＲ等の別室の設置
～「わたしの居場所ができた！」令和５年３月～

桜　小

長欠（不登校）８名　長欠（病欠）８名　長欠傾向１２名　計２８名　５．５％
※　通常級における特別な支援を要する児童の出現率と同等



資料10　◇◇さんメーター（学校に登校できた回数グラフ）

学校で過ごした時間（月計）

名前	在校時間
	１４時間３０分

月日	6/3	6/4	6/5	6/6	6/7	6/10	6/11	6/12	6/13	6/14	6/17	6/18	6/19	6/20	6/21	6/24	6/25	6/26	6/27	6/28	6/28
曜日	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	金
朝																					
１校時																					
２校時							✿											✿			
業間	✿						✿											✿		✿	
３校時	✿						✿											✿		✿	
４校時	✿						✿											✿		✿	
昼	✿						✿											✿		✿	
５校時																				✿	
６校時																					

✿…教室　✿…学校

６月○年生のあなたが考える目標

学校を１週間毎日がんばる。　Ｒ６最大連続登校５／１５～２１の５日間

学校ですごした時間　　教室ですごした時間

名前

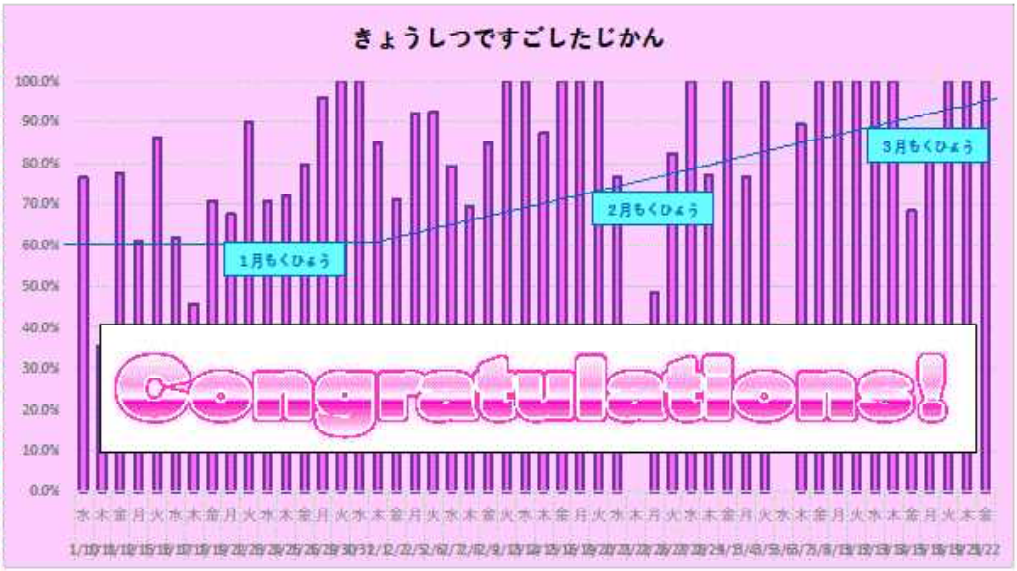
月日	1月29日	1月30日	1月31日	2月1日	2月2日
曜日	月	火	水	木	金
朝	✿				✿
１校時	✿				✿
２校時	✿				✿
業間	✿				✿
３校時	✿		✿		✿
４校時	✿				✿
昼	✿				✿
５校時	✿				✿
６校時					

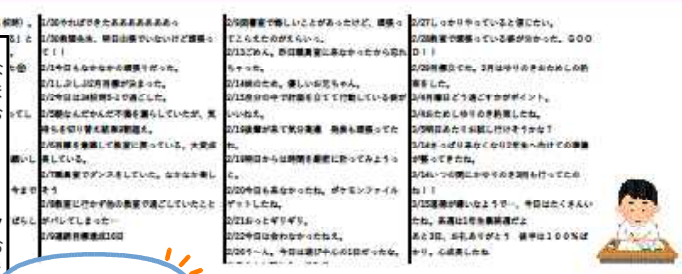
さんのいちにち　9 月 26 日（火）

目　標			
願　い			
校時・時間	教　科	内　容	
1 08:30 09:15			
2 09:20 10:05			
3 10:30 11:15			
4 11:20 12:05			
昼 12:10 13:05			
5 13:40 14:25			
6 14:30 15:15			
メモ			

資料11　◇◇さんメーター（教室に戻れた時間グラフ）

1/10	水	76.5%
1/11	木	35.4%
1/12	金	77.6%
1/15	月	60.8%
1/16	火	86.1%
1/17	水	61.8%
1/18	木	45.5%
1/19	金	70.7%
1/22	月	67.5%
1/23	火	89.9%
1/24	水	70.5%
1/25	木	72.2%
1/26	金	79.7%
1/29	月	95.9%
1/30	火	100.0%
1/31	水	100.0%
2/1	木	84.8%
2/2	金	71.0%
2/5	月	91.9%
2/6	火	92.4%
2/7	水	79.4%
2/8	木	69.6%
2/9	金	84.8%
2/13	火	100.0%
2/14	水	100.0%
2/15	木	87.3%
2/16	金	100.0%
2/19	月	100.0%
2/20	火	100.0%
2/21	水	76.5%
2/22	木	???
2/26	月	48.4%
2/27	火	82.3%
2/28	水	100.0%
2/29	木	77.2%
3/1	金	100.0%





ロイロノートにて毎日の学校での様子や、一週間教室でみんなと授業を受けられた割合など、普段はなかなか知ることのできない学校での様子がわかり、安心して学校に送り出すことができました。お忙しい中毎日コメントまでくださり、本当に感謝しております。グラフにしてくださったので成果が一目でわかりやすく、息子も目標をもって授業に参加できていたように感じます。

また、畑のお仕事やランタン作りなど季節を感じることのできる体験をさせてくださったり、子どもの興味関心のあるキャラクターなどを用いてやる気をアップさせる工夫をしてくださったおかげで、息子にとって毎日の学校生活がより楽しくなったようです。
本当にありがとうございました。

保護者から

資料12　関係機関とのZoom会議

ケース会議記録

R6. 2. 7
桜小学校

総合療育センター　◇◇Dr.からは、適宜ご助言をいただきたいと思います。

1　自己紹介

保護者2　学校3　児相3　相談支援事業所1　訪問看護ステーション3　放課後デイサービス1

2　現状説明（困っていること、支援していること）

（1）家庭

母

父

（2）学校

担任

（3）児童相談所

さん

心理判定員

（4）相談支援事業所、訪問看護ステーション

相談支援事業所

訪問看護ステーション

（5）放課後デイサービス

（6）SC

3　協議（現状改善に向けての支援策の提案・検討）

T
放
母
T
Dr
母
Dr
T
Dr

資料13　栽培活動

資料14　九九の習得

かけ算九九（苦手特化）

月　日　名前

(1)6 × 8=	(16)6 × 8=
(2)8 × 7=	(17)7 × 6=
(3)4 × 6=	(18)4 × 6=
(4)7 × 6=	(19)8 × 6=
(5)6 × 9=	(20)9 × 6=
(6)8 × 6=	(21)7 × 8=
(7)7 × 3=	(22)8 × 7=
(8)6 × 4=	(23)3 × 7=
(9)9 × 6=	(24)5 × 7=
(10)7 × 8=	(25)6 × 9=
(11)3 × 7=	(26)8 × 8=
(12)5 × 7=	(27)6 × 7=
(13)8 × 8=	(28)7 × 5=
(14)6 × 7=	(29)6 × 4=
(15)7 × 5=	(30)7 × 3=

かけ算九九（苦手特化）

月　日　名前

(1)7 × 6=	(16)6 × 8=
(2)6 × 4=	(17)8 × 6=
(3)6 × 7=	(18)3 × 7=
(4)6 × 9=	(19)7 × 5=
(5)8 × 8=	(20)7 × 8=
(6)5 × 7=	(21)6 × 4=
(7)8 × 6=	(22)8 × 8=
(8)7 × 8=	(23)5 × 7=
(9)7 × 3=	(24)9 × 6=
(10)6 × 8=	(25)8 × 7=
(11)4 × 6=	(26)6 × 9=
(12)7 × 5=	(27)4 × 6=
(13)6 × 7=	(28)7 × 3=
(14)8 × 7=	(29)8 × 7=
(15)9 × 6=	(30)3 × 7=

かけ算九九（苦手特化）

月　日　名前

(1)8 × 6=	(16)8 × 6=
(2)6 × 9=	(17)7 × 5=
(3)7 × 8=	(18)6 × 9=
(4)8 × 7=	(19)8 × 7=
(5)6 × 4=	(20)3 × 7=
(6)8 × 8=	(21)7 × 5=
(7)7 × 3=	(22)6 × 4=
(8)6 × 7=	(23)4 × 6=
(9)9 × 6=	(24)5 × 7=
(10)4 × 6=	(25)7 × 3=
(11)6 × 8=	(26)8 × 8=
(12)5 × 7=	(27)9 × 6=
(13)7 × 6=	(28)6 × 8=
(14)3 × 7=	(29)7 × 8=
(15)6 × 7=	(30)6 × 7=

かけ算九九（苦手特化）

月　日　名前

(1)7 × 5=	(16)8 × 8=
(2)6 × 8=	(17)7 × 8=
(3)8 × 7=	(18)6 × 4=
(4)6 × 7=	(19)8 × 7=
(5)9 × 6=	(20)8 × 8=
(6)8 × 6=	(21)4 × 6=
(7)5 × 7=	(22)6 × 9=
(8)7 × 8=	(23)7 × 5=
(9)6 × 4=	(24)6 × 8=
(10)6 × 9=	(25)3 × 7=
(11)3 × 7=	(26)9 × 6=
(12)7 × 3=	(27)7 × 3=
(13)4 × 6=	(28)5 × 7=
(14)6 × 7=	(29)6 × 7=
(15)7 × 6=	(30)8 × 6=

資料15　計算ランキング

計算力トレーニング

モード	問題数指定
計算タイプ	たし算
記号の数	1つ
むずかしさ	やさしい
問題数	100

ランキング

	名前	学級	得点	経過時間	誤答数	年月日
1			1003.1	169.9	1	05.11.10
2			999.9	150.1	3	05.11.15
3			996.8	183.2	0	05.11.06
4			950.5	169.5	6	05.11.01
5			946.4	133.6	10	05.11.14
6			941.5	178.5	6	05.12.01
7			938.2	221.8	2	05.11.15

資料16　ご褒美シール

◇◇さんがんばりシート

No.1

○　1にち　がんばれたら　1まい　もらえるよ。

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30

資料17　客観的受容度評価

家庭訪問・電話連絡の際、相手の受容度を考えることで、良好な関係を築く入口となることがあります。

【受容を表す3要素】

A　尊重
低い1：他者の意見や感情を軽視し、不適切な態度をとる。
高い5：他者を尊重し、相手の権利や尊厳を尊重する。

B　理解
低い1：他者の立場や視点を理解せず、自分の意見に固執する。
高い5：他者の視点を理解し、対話を通じて共通の理解を築く。

C　寛容性
低い1：異なる意見やバックグラウンドに対して閉鎖的で、受け入れない。
高い5：多様な意見や文化を受け入れ、協力関係を築く柔軟性がある。

総合点

資料18　利用日記：Googleフォーム

SRすだち　りよう　にっき

SRすだちをりようした人は、かならずかきましょう。

1　なまえをかきましょう *

記述式テキスト（短文回答）

2　いっしょうけんめい、とりくむことができましたか？ *

	1	2	3	4	
はい	○	○	○	○	いいえ

3　じぶんでかんがえて、こうどうすることができましたか？ *

	1	2	3	4	
はい	○	○	○	○	いいえ

4　いま、おちついていますか？ *

	1	2	3	4	
はい	○	○	○	○	いいえ

5　かんそうをかきましょう。 *

記述式テキスト（短文回答）

参考文献

○　文部科学大臣メッセージ　～誰一人取り残されない学びの保障に向けて～
令和　５年１０月１７日　文部科学省

○　令和４年度　児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果及び
これを踏まえた緊急対策等について（通知）　令和　５年１０月１７日　文部科学省

○　不登校・いじめ緊急対策パッケージ　令和　５年１０月１７日　文部科学省

○　令和４年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について
令和　５年１０月　４日　文部科学省

○　「不登校に関する実態調査」～平成１８年度不登校生徒に関する追跡調査報告書～
平成２６年　７月　９日　文部科学省

○　令和２年度不登校児童生徒の実態調査　結果の概要
令和　３年１０月　６日　文部科学省

○　第７次福島県総合教育計画　令和　３年１２月　福島県・福島県教育委員会

○　第７次福島県総合教育計画をテーマとした教育長と新任教員による対談（動画）
令和５年１０月１６日　福島県教育委員会・福島県教育センター

○　ふくしまサポートガイド～ふくしまのすべての子どもたちのために～
令和　３年　１月　福島県教育委員会

○　不登校対応資料　Vol.5　豊かな学校生活のために ～チームで切れ目のない援助を～
平成２９年　２月２３日　福島県教育委員会

○　ふくしま教育ニュース第６０号　令和　５年　７月　福島県教育委員会

○　「多様性を力に変える教育の実現について」
令和　５年　２月２４日　令和４年度第２回福島県総合教育会議配付資料

○　スクールカウンセラーの効果的な活用に向けて【県中版】
令和　６年　１月　福島県教育庁県中教育事務所

○　「わたしの居場所ができた！」～郡山市立学校の実践事例にみる不登校対策～
令和　５年　３月　郡山市教育委員会　総合教育支援センター

○　「小学生用不登校傾向尺度の作成と信頼性・妥当性に関する検討」（五十嵐哲也）
平成２２年　２月　愛知教育大学教育実践総合センター紀要第１３号

○　接触困難な長期欠席児童生徒（および保護者）に学校教職員はどのようなアプローチが
可能かー法的規定をめぐる整理ー（羽間京子、保坂亨、小木曽宏）
平成２３年　３月　千葉大学教育学部研究紀要第５９巻

○　子どもにとって魅力ある学校づくりへの挑戦　不登校に関わる問題を改善する教育活動
令和　６年　１月　東京書籍

○　「教師と支援者のための令和型不登校対応クイックマニュアル」（神村栄一）
令和　６年　２月　２日　ぎょうせい

○　「不登校の９割は親が解決できる」（小川涼太郎）
令和　６年　５月１４日　ＰＨＰ研究所

○　「うつ病の僕と精神科医の猫」（精神病院勤務者チーム）
平成２９年　７月　４日　Kindle版

参考施設

○　令和５年度福島県子どもの居場所づくり支援事業「知恵空間」

○　放課後デイサービス　あすえーる　あさか校